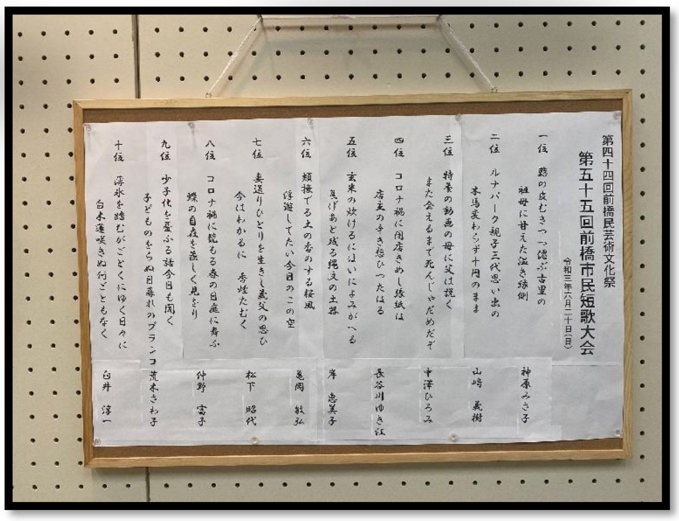
大展示ホール
短歌・俳句・川柳 合同作品展
短歌・俳句・川柳
合同作品展
入口
大展示室

目で掬く文字を流して秋の川

ゆっくりとかたつむりの

生きるとは
次へバトンを
渡すこと
長嶋茂雄が
聖火を運ぶ


第四十四回前橋民芸術文化祭

第五十五回前橋市民短歌大会

令和三年六月二十日(日)

一位　鶏の皮むきつつ偲ぶ古里の
　祖母に甘えた温き縁側
神原みさ子

二位　ルナパーク親子三代思い出の
　木馬変わらず十円のまま
山﨑　義樹

三位　特養の動画の母に父は説く
　また会えるまで死んじゃだめだぞ
中澤ひろみ

四位　コロナ禍に閉店きめし張紙は
　店主の手書き想ひつたはる
長谷川ゆき江

五位　玄米の炊けるにほひによみがへる
　焦げあと残る縄文の土器
岸　恵美子

六位　頬撫でる土の香のする桜風
　浮遊してたい今日のこの空
亀岡　敏弘

七位　妻逝きひとりを生きし義父の思ひ
　今はわかるに　香煙たむく
松下　昭代

八位　コロナ禍に籠もる春の日庭に舞ふ
　蝶の自在を羨しく見たり
仲野　富子

九位　少子化を憂ふる話今日も聞く
　子どものきらぬ日暮れのブランコ
荒木さわ子

十位　薄氷を踏むがごとくにゆく日々に
　白木蓮咲きぬ何ごともなく
白井　淳一